SG 12ed Auto Race GP in Isesaki interview

前回覇者
武藤 博臣 Hiroomi MUTO
船　橋・28期

スーパーハンデで走っていた島田、片平に憧れていた少年時代。金網越しに観ていた「オートレーサーになりたい」という夢を実現させる為に、すでに合格して入所していた競艇学校を辞めて、28期を受験しオートレースの世界に飛び込んだ武藤博臣。

デビュー当時から類希なスピードは同期の中でも際立つ存在であったが、早々と最重ハンデを背負わされそのスピードを生かせぬレースが多かったのも事実。

その武藤がデビュー5年目となる昨年、地元で開催されたSG第11回オートレースグランプリで才能を一気に開花させ、5連勝の完全優勝を飾った。

しかし、その約2ヵ月後のGI船橋オート祭2日目に落車事故に巻き込まれて頭蓋骨と顎を骨折。一時は意識不明に陥る重傷を負ったが、九死に一生を得て長いリハビリ期間の後、今年5月にレーサー復帰を果たした。

完全復活を目指す武藤に連覇がかかるオートレースグランプリに向けて意欲のほどを語ってもらった。

昨年のオートレースグランプリを振り返って

「グランプリの直前に浜松の一般開催を走っていたんですが日毎に動きが悪くなっちゃたんです。それでグランプリの前検日にエンジンを全部バラしてクランクを換えました。地元じゃなかったらやらなかったかもしれませんね。」

「練習はほんの慣らし程度だったので初日はほとんどブッツケでした。それでレースしてみたら、いい動きだったんです。でもクランク換えた直後の一走目はだいたい動くんです。だからいい動きが長続きしてくれるのか?の不安の方が大きかったですね。」

「2日目は3.37秒と時計も出て勝てたけど不安はまだ消えなくて…」

「3日目はモレなしの12レースに乗れたので、その年2回優勝した時に付けていたタイヤを試してみました。タイヤは思った通り滑りもなく良かったですね。ただエンジンは初日や2日目とは感じが違っていました。最終レースで冷えたからか?先伸び気味でパワーが弱かったんです。それでもゴール前で浦田さんを交わせたので決して悪い動きじゃないんですけどね。

この時点で優勝戦もしくは、準決勝で12レースだったら整備が必要だと思いました。船橋は11レースまでと12レースではエンジン同じ状態でも動きが変わってしまうんです。」

「準決勝は11レースだったので整備は何もしませんでした。タイヤも3日目の物と同じです。このあたりではもう車に自信持っていました。なので、ここで決勝に乗れなきゃ男じゃないな!と思っていつもはレース前でもあまり緊張しないんですけど優出を意識しちゃって緊張しましたね。いいスタートが切れて優出できて嬉しかったんですけど走り終わってエンジン下降気味だと感じました。

優出したメンバーを見たら池田さんはあまり調子良さそうじゃなかったし、浦田さんはいないし…。有吉さんと平田くらいじゃないですか、良さそうに見えたのは。

抜けた仕上がりの車はいないし、もう少し自分の車を良くすれば優勝戦でも勝負できるんじゃないかな、って感じました。優勝戦の日はガス調整をしました。セッティングを変えたのはこの節で初めてです。少し冷えても走路に食われなくするようにパワーを出す方向です。3日目にレースを走って感じていたので、決勝に乗ったらやろうと決めていました。タイヤはペタペタに低かったけど準決勝で使ったものです。試走に行ったら牧野さんにグーンと詰まって手応え抜群でした。エンジン、タイヤ共に万全の状態だったのでこんなチャンスは一生ない!この仕上がりで勝てないようじゃこの先も絶対に勝てない!と思うくらいの感触だったんです。レースはスタート後の1コーナーで岩見と有吉さんが見えましたけどうまく2番手で2コーナーを立ち上がれました。それで1周してきたら中村君を交わせてトップに出たんです。初めての10周戦だったので周回板を見ないで走ろうと思ったんですが、つい見てしまったらあと6周の表示でした。まだ6周もあるのか!とガッカリしちゃいました(笑)。

レースのほとんどを逃げていたのでホント長かった。インパクトのあるレース内容ではなかったけれどチェッカーフラッグを見た時は嬉しかったです。頑張って走ってくれたマシンに感謝しないといけないですね。

その日の夜はいつもお世話になっている先輩や同期に祝ってもらいひと晩でかなりの大金を使っちゃいました(笑)。」

悔しい若獅子杯の優勝戦

「グランプリを勝ったあとの伊勢崎で気が緩んでいた僕に福田裕二さんが注意してくれたんです。SGの看板を背負って走ってるんですからね。注意してもらって目が覚めました。

悔しい思いをしたのは10月のGⅡ若獅子杯の優勝戦です。最高のハンデの最内というポールポジションだったです。SGを勝った人の置かれる位置じゃないですよね。エンジン良くて試走も一番時計で負けちゃったんです。人気にもなってただろうし、お客さんに迷惑かけてしまいました。こういうチャンスはモノにしないといけない!そう思いましたね。自分の中でそれまで以上に責任感が出てきたんです。」

船　橋　2007.9.24（ＳＧ第11回オートレースグランプリ）

1	2	武藤博臣（船橋）バルデラマ	0	3.333
2	4	有吉辰也（飯塚）タツダンス	0	3.353
3	5	中村雅人（船橋）タイソン	0	3.355
4	6	金子大輔（浜松）イヌドッグ	0	3.361
5	7	池田政和（船橋）マンティス	0	3.369
6	1	牧野貴博（船橋）ハイビート	0	3.380
7	3	平田雅崇（飯塚）トラノスケ	0	3.382
8	8	岩見貴史（飯塚）ニワトリチキン	0	3.400

３連単②ー④ー⑤　６，０８０円

会心の日本選手権準決突破

「若獅子杯の優勝戦は悔しい思いをしましたが、その直後の日本選手権の準決勝戦が僕にとっての会心のレースでした。下回りは若獅子の時にやっていたのでこの時はヘッドやシリンダーなどパーツを換えたりかなり仕事しました。それでも思うような動きになってくれませんでしたが何とか準決には行けました。あの超抜の時の山田真弘さんと同じレースでした。いいスタート決めたんですが外から山田さんにあっさり抜かれてあっという間に離されちゃったんです。無理して追いかけたらミスると思い、自分が先頭を走っていると思い込んでマイペースでコースを外さないように心がけました。それで何とか2着を確保できたんです。完璧ではなかったですけどその日のマシンの状態の限界まで引き出せたんじゃないかな。かなり冷静にレースを組み立てられました。グランプリを勝ったあとのSGだったので、この優出でSG覇者としてのノルマは達成できたのかな?と安堵感で一杯でした。」

大事故を乗り越えての復帰

「事故についての記憶は全くないので恐怖心や怖さはないんです。ただ観てた人に聞くと凄かったらしいですね。九死に一生を得たって言うんですか?
運が良かったんでしょうね。選手を辞めようとかは全然思わなかったです。オートレースが大好きですし、絶対に復帰するつもりでしたから。」

せっかく選んでいただいてたオールスターに間に合わせられるようにリハビリを頑張って直前の開催で練習参加したんです。でも、万全ではなく、この状態で走るのはお客さんに失礼にあたる、と思い辞退させてもらいました。

その後の地元開催で復帰したんですが、頭で考えている事を身体が反応できなくてうまく乗れないんです。まだ、気持ちと身体がバラバラです。あまり焦っていてもいい事ないと思うので心配しないようにしています。それまでは出来る事から取り組んで行こうと心がけています。エンジン面、ハンドルやヒザ当てなどフレーム関係をしっかりさせる事です。身体が良くなった時にいい走りが出来るように準備はしています。」

連覇がかかるＳＧオートレースグランプリ

「5月に復帰してから初めて1着とれたのが7月のGIムーンライトの時だったんです。走路の食い付くナイター開催は追い上げが効くから好きですよ。現状では連覇なんてとても考えられないですね。さっきも言ったんですけど、まずは“以前の自分を取り戻す”これが先決です。再びSGの舞台で輝けるように地道に頑張ります。」

（オートニュース　佐藤雄二）

直近2節成績

7月	船橋	普通	6547
8月	浜松	GⅡ	3856

伊勢崎前回成績

H20年7月　GⅠ　54183

※成績は2008年8月12日現在のものです。